

別紙様式2(高)

	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
数学	身近な事象や課題を、数学を用いて解決する力を養う。	身近な題材を用いた問題を扱い、生活との関連を重視した学習を行うことで、数学的に物事を解決する力を身に付ける。	B	B 基礎学力の向上においては一定の成果が上がった。一方、数学的に物事を解決する力及び客観的・論理的に物事を説明する力を身に付けさせることについては不十分であるため、アクティブラーニング等を効果的に導入し改善を図っていきたい。
	論拠に基づき自分で判断する力を育成する。	問題演習にとどまらず、他者に説明する機会や、自分の考えを記述する機会を増やし、客観的・論理的に物事を説明する力を身に付ける。	B	
	基礎学力の向上を図り、大学入試にまで対応できる力をつける。	小テストの実施、放課後の補習・宿題等で確かな学力を身に付ける。数学検定を実施し、学力の向上を支援する。思考力を要する発展的問題に取り組み、大学入試に対応できる学力の向上を目指す。	A	
理科	科学的リテラシー、学習事項の基礎基本の定着と上級学校へ向けた学力育成に努める。(知識・技能)	スタディサプリの効果的な活用の研究と、学習方法が展開できるよう援助する。	B	B 3学年のトリニアカデミーとの連携が、今年度はうまくできなかったため、次年度は学年との連携をうまくとりながらすすめて行きたい。 スタディサプリの導入が主要3教科に偏る傾向にあるので、理科としても積極的に活用していく。 新しい観点別評価について研究を進め、定期テストの中に観点別評価を導入するなどの工夫をしていく。
		定期考査の振り返りと、補講などにより基礎基本を定着させる。	A	
		トリニアカデミーと連携しながら、個に応じた進学課外を実施する。	C	
	生徒の主体性を育成できるような授業展開に努める。(学びに向かう力)	日常生活との関連や、授業の目的の明確化により、能動的な学びを展開する。	B	
		授業公開を積極的に行い、教科間で情報の共有や相互授業参観などを行うことで授業の向上を図る。	C	
		アクティブラーニングの手法を用いた学習を実践する。	B	
	学習事項と日常の科学的事象とを結びつけて考えられる力を育成する。(思考力・判断力・表現力)	振り返りシートを簡素化し学習内容を文章で表現したり、気付きや疑問点をまとめられる力を育成する。	A	
視聴覚教材やデジタル教科書を狙いを持って利用し、生徒がイメージしやすい環境をつくる。		A		
観点別評価を行うことで、生徒の資質を多様な側面から評価できるよう努める。	授業ごとに行う評価では個々を評価できるよう工夫する。	A		
	振り返りシート、レポート、小テスト、パフォーマンステストなど、多様な評価を行うとともに、定期考査で評価する観点を明確にする。	B		
保健体育	体力の向上を図る。	準備体操に筋力トレーニング、体づくり運動を取り入れ、体力の向上を図る。	C	B 全体的に、種目に対しては積極的に取り組む生徒が多いが、トレーニングや体づくり運動については意欲が低い。 スキルテストと評価を共有して出来ている。レベルに応じたプログラムを充実させたい。 単元毎に学習のテーマを設定して、グループ活動を充実して実践力を育成できるように支援していきたい。
		体力テストの結果から、次年度の改善策を検討する。	C	
	技能向上を把握する。	各種目・各講座において、スキルテストの統一実施を行う。	B	
	社会的態度を育成する。	挨拶、準備、片付け、集団行動に力を入れる。	B	
	思考・判断を育成する。	グループ学習を取り入れ、生徒が自ら考え、意見を発表する場をつくる。	C	
課題学習の充実を図る。	プリント、ノートを定期的に点検し、学習の習慣をつける。	B		
芸術	表現領域をより深める。	生徒の個性を生かした創造的な活動を行う。	A	B 表現領域の学習と鑑賞領域の学習を関連付けて行うことで、より一層、よさや美しさを感じ取る力の育成を図りたい。
		自己の内面を掘り下げながら、言葉や作品で表現していくことができるように支援する。	B	
	鑑賞領域を充実させる。	芸術文化についての理解を深める学習の充実を図る。	A	
		よさや美しさを感じ取る力の育成を図る。	B	
外国語	基礎学力の向上を図る。	小テストや単語テストを継続的に実施し、4技能の基礎としての語彙力・文法知識の向上を図る。	A	B 多様な進路希望に対応できるよう、3年間を見通した指導計画をさらに工夫し、全体の基礎力向上を図る。 模試の振り返りや解き直しなど細やかな指導を通し、大学進学に対応できる学力の定着をめざす。 4技能を高める指導の工夫についての研究を継続し、授業に還元する。
		進学対策や英検指導など生徒の進路に応じた課外授業を実施し、実態に即した支援を行う。	B	
	家庭学習の定着を図る。	予習・復習を前提とした授業を展開し、家庭学習の習慣を定着させる。	B	
		定期考査の計画的な対策や事後の振り返りなど、自主的に学習に取り組む意識の高揚を促す。	A	
	英語コミュニケーション能力を高める授業を工夫する。	ALTの活用を通して4技能を総合的に高める指導を工夫し、実践的コミュニケーション能力の育成を図る。	A	
グループやペアによる言語コミュニケーション活動を用いた生徒主体の授業を積極的に展開する。	B			

別紙様式2(高)

		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題			
家庭	知識と技術の定着・向上を図る。	家政科においては、技術検定等の資格取得(上級合格)を目指し、特に家庭科技術検定では1級3冠王を輩出する。	A	A	家庭科技術検定1級三冠王を8名輩出することができた。(予定)課題研究さをり織りコースでは、クリエイティブコンテストに出品し、2年ぶりに「佳作」入賞することができた。 教員の指導力向上のため、日々教材研究に努め、家庭部主催の研修会にも参加することができた。 子育て支援事業については、もう少し家庭クラブ活動と連携して実施できるよう計画的に進めていきたい。 大学出前講座やマイスター制度、デュアルシステムの利用を通して、生徒の職業観の育成や実技技術の向上に有効であった。次年度以降も引き続き実施していきたい。			
		個々の生徒の到達度を把握し、きめ細やかな支援を徹底する。	A					
		家庭での反復学習の指導, 計画的な補習を行う。	B					
	教員の指導力と管理能力の向上に努める。	日々教材研究に努め、正確かつ最新の情報を授業に取り入れるよう努める。	A					
		専門科目を教える自覚を持ち、自身の技術向上のために日々研修に励む。	A					
		包丁や裁ちバサミなど実習道具の安全管理に努める。	A					
	地域との連携強化に努める。	学校家庭クラブ活動を活発にする。	B					
		子育て支援, 家庭教育支援を行う。	B					
		TORINYブランドのPR及び学校通信等を通じて本校家政科の広報活動を行う。	A					
	進学指導の充実に努める。	大学出前講座やマイスター制度を利用し、進学意識を高める。	A					
		デュアルシステムを導入し、生活産業への理解を深めさせる。	A					
		キャリア教育を教科指導に導入し、職業観を培う。	A					
家政系の大学への進学を意識づけるよう、情報提供を行う。		A						
情報	基礎学力の向上を図る。	パソコンの実習を通して、基本的な操作の習得・習熟に努める。	A	A	毎時間課している入力練習により入力技能の確かな向上が見られ生徒の自信につながっている。今後はプレゼンテーション能力向上を目指す指導を強化して情動的表現力の向上に努めたい。			
		振り返りシートを用いて毎時間の達成状況を把握し、個別の指導に生かす。	A					
		ビジネス文書実務検定試験の受験を通じて自己研鑽の心を育成する。	A					
	情報モラルを確立する。	情報化社会の問題点を捉えることを重点課題とし、情報モラルについて年間を通じて繰り返し指導する。	A					
		情報をめぐる具体的な問題事例を取り上げて、その改善策を考えさせる。	A					
教務部	授業の充実による基礎学力の定着を図る。	シラバスを作成・活用し、年間を通して計画的な授業展開を行う。	B	B	ユニバーサルデザインを意識した授業など、個々の生徒に配慮した「わかる授業」を研究、推進する。 新高等学校学習指導要領に対応する教育課程編成を完成し、評価の観点等について教員の共通理解を深める。 進路指導・教科指導と連携し、授業の予習復習をはじめ各種検定試験や模擬試験での家庭学習を促すなど、生徒が学年や学習段階に応じて自主的に学習に取り組む習慣づくりを支援する。			
		研究授業を実施し、授業スキルを向上させ、分かる授業の展開に努める。	B					
		学習活動アンケートを実施して生徒の授業理解度や学習状況等を把握し、授業改善に生かす。	B					
		学習評価結果を検証し、評点や評定について教科の枠組みを越えて理解を深める。	B					
	授業時間を確保する。	授業交換を適切に行い、授業時間確保に努める。	A					
		行事等に際して特編授業や短縮授業を実施することで、授業の偏りを少なくする。	A					
	校内研修会を充実させる。	定期考査期間中に職員研修会を開催し、職員の研修に努める。	A					
		外部での諸研修会の結果報告の場を設け、職員全体での情報の共有を図る。	B					
	校内におけるICT環境整備に努める。	各普通教室及び特別教室等に整備する教育用コンピュータや周辺機器の管理を行う。	A					
		校内LANやインターネット接続といったネットワーク環境の整備に努める。	A					
		ICT環境の保守管理にあたり、情報セキュリティの確保や個人情報の保護、コンピュータウイルスへの対応に留意する。	A					
	渉外	保護者や地域住民に情報発信をする。	年2回PTA新聞「あおい」を発行し、学校の情報を外部へ発信する。			A	B	PTA本部役員との連携はとてもうまくいったと思う。生徒指導部と各学年委員との連携および各学年と学年委員との連携に関してはPTA本部役員と協議しながら改善していく必要があると思われる。また登校指導の回数や時期についても検討していきたい。
			定期的に学校通信を発行・配付して、近隣中学校や地域住民に学校の情報を発信する。			A		
		保護者が参加しやすいPTA組織づくりをする。	定例会・各種専門委員会の開催により、PTA役員・保護者との連携に努める。			A		
			PTA総会を開催し、PTA会則の見直しや保護者の負担軽減を図る。			A		
生徒指導部と各学年委員との連携を図り、巡回指導や登校指導を行う。			B					
各学年と学年委員との連携を図り、学校行事への保護者の参加率向上に努める。			B					
同窓会との連携を図る。		同窓会役員会への出席と同窓会入会式の実施を支援する。	B					

別紙様式2(高)

		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教務部	図書	図書館の環境整備に努める。	本校の現状と教育目標をもとに配架計画を立てる。	B	B ①学習センターとしての図書館を旨とし、図書資料の充実や電子黒板の有効活用を図る。 ②生徒の読書習慣の定着を図る。 ③図書委員会の活性化を図る。
			利用価値が低い図書を除籍・廃棄する。	C	
			日本十進分類表の区分表示に従い蔵書を配架する。	B	
			配架する図書のデータベース化を行う。	B	
			各教科と連携を図り、図書の購入計画と活用計画を立てる。	C	
	読書習慣の定着を図る。	図書館便り・学校行事等を通して読書の楽しさを伝え、読書習慣の定着を図る。	B		
		生徒図書委員と図書担当職員の研修に努める。	A		
生徒指導部	基本的な生活習慣の確立を図る。	きちんとした身だしなみを身に付けさせる(頭髪・服装指導の定着)。	B	B 基本的な生活習慣の確立に向け、教職員の共通認識・共通実践の環境を整える。 特に配慮を要する生徒への対応を充実させる。 外部諸機関との連携をさらに深め、地域社会と一体となって指導にあたる。	
		自ら環境等を整える態度を育成する(段階的指導による自己指導力の育成)。	B		
		礼儀・挨拶、言葉遣い等の基本的マナーを身に付けさせる(声かけ指導)。	B		
		時間を守って生活できる習慣を育成する(遅刻指導等)。	B		
	生徒が自己実現を図るうえで必要な自己指導能力の育成を目指す。	問題行動への予防・解決に努め、生徒を健全育成する(家庭訪問・個人面談等の実施)。	A		
		学校・家庭・地域・関係機関等と連携して生徒の健全育成と社会的自立を図る。	A		
	交通安全指導の充実を図る。	登校指導等による道路交通法の励行・交通安全講話を実施する。	A		
進路指導部	生徒の進路に対する意識の向上と自主的な進路活動を支援する。	進路3カ年計画を具体化し、各学年と目的と内容を共有した上で、計画的に進路行事を実施し、進路意識を向上させ学習意欲を喚起させる。	A	A 就職試験の難化や定員厳格化に伴うAO・一般推薦入試の難化について、生徒の認識を改めることが十分ではなかった。より早期から繰り返し周知する必要がある。 進学希望者についてはおおむね希望通りの進路選択となった。進路決定者の授業に対するモチベーションの向上や、より効率的な外部試験の活用については検討の余地がある。	
		キャリア教育の一環として、インターンシップや職業人講話、職業ガイダンスを計画・実施し、職業観・勤労観を身につけさせる。	B		
		進路のしおり・情報誌等を提供することにより、生徒の自主的な進路活動を支援する。	A		
	大学進学に向けた進路指導体制の基盤をつくる。	各教科と連携を図り、平常の授業力向上に対して情報交換を行い、長期休業中においてはセミナー等を計画・実施する。	B		
		各学年と連携を図り、外部模試を計画・実施し、その結果を分析し一人一人との生徒面談へと繋げる。	B		
		生徒の実態に即した学習環境の整備に努め、基礎の学び直しを学校全体でサポートし、一層の学力の増進と大学進学率の向上につなげる(学力向上プロジェクトの推進)。	A		
	進路情報の共有と活用に努める。	生徒のデータベースを作成して、必要な情報を共有して進路指導や面談等に活用する。進路情報についても情報共有を行い、指導者の専門的な知識を活かした支援を行う。	A		
		新課程の導入や入試制度の変更に向けて情報収集や研究に努める。	A		
特別活動部	生徒が主体的に活動するための支援を行う。	各種生徒会行事に対して、生徒が自主的に活動・運営できるように支援する。	B	B 各行事ともに、生徒の規範意識も満足度も高く非常に充実させることが出来た。しかし、教員側が行事に対応することで精一杯になり、後手に回ることが多かった。定期的な打合せ等、特別活動部・生徒会の運営サイクルの定着に努める。	
		生徒が、地域貢献活動を主体的に参加できるように支援する。	B		
		部活動の活動の質を高め、生徒の健全な心身の育成と学校の活性化につなげる。	B		
		委員会活動が活性化するように支援する。	C		
保健安全部	各種検診を完全実施する。	広報・伝達の徹底を図る。	B	B 生徒の質が益々多様化していく中、臨機応変な柔軟な対応が必要である。	
		学校医との連携を図る。	A		
	教育相談の充実を図る。	生徒・教師・保護者との連絡を密にする。	B		
		スクールカウンセラー及び関係諸機関との連携を図る。	B		
	環境整備・清掃を強化する。	生徒の意識の向上を図る。	B		
		委員会の活用を図る。	B		
	職員研修の充実を図る。	危機管理防災意識を向上させる。	B		
		スクールカウンセラーを交えたケース会議を開催する。	B		
		AED講習会を開催する。	A		
	性教育意識を向上させる。	知識の理解と啓発を図る。	A		
生徒の実態に応じた性教育講演会を実施する。		A			

別紙様式2(高)

	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第1学年	基本的な生活習慣と学習習慣の確立を図る。	能率手帳を活用し、自己管理を徹底し、規則正しい生活習慣を身に付けさせる。	B	A 生徒が落ち着いた学校生活を過ごすために担任が中心となり、学年全体で連携を取って生徒の指導に取り組むことが出来た。基礎学力や進路意識を向上させるために定期的に話し合いを行ったことで、計画的に学年運営を行うことができた。次年度の課題として、3学年になるまでに自身の適性や希望に応じた進路選択が出来るように進路指導の充実を図っていきたい。
		基礎的学力の養成と、家庭学習の習慣化を図る。	A	
		礼節を重んじ、節度のある高校生活が送れるよう指導する。	A	
		出欠、服装容儀などの基本的な生活習慣の確立に努める。	B	
	進路意識の醸成と適切な進路選択の支援を図る。	発達段階に応じて適切に計画を立て、進路意識を深める。	A	
		職業を知り、自己を見つめ、自分の適性に応じた進路選択を支援する。	B	
		望ましい職業観を育成し、早期に進路意識を確立する。	B	
	社会に貢献し、社会から求められる人材の育成に努力する。	自己肯定感を高め、自己の可能性を開発できるよう支援する。	A	
		社会に積極的に関わり、他者に配慮できる人材を養成する。	B	
自分の言動に責任を持ち、場に応じた言動が取れるようにする。		A		
第2学年	基本的な生活習慣と学習習慣の確立を図る。	能率手帳を活用し、生徒一人一人の自己管理能力を高め、基本的な生活習慣や学習習慣の確立を図る。	B	B 生活面では、多くの生徒が節度を守り学校生活を送っているが、2学期後半より、遅刻、欠席が目立つ生徒が出てきた。また、学習面では、目標を持って努力している生徒がいる反面、授業に集中することのできない生徒も見られた。進路については、バス見学会や、進路別講演会、進路コースの設定等により、自分の進路について考え、具体的に行動する生徒が増えている。今後は、進路コース別の指導を充実することで、生徒一人一人が目標とする進路の実現に向け、積極的に学習に取り組む、生活習慣を改善するようにする。学年団は経験豊かな先生方がそろっており、協力して学年運営にあたることができた。
		基礎的学力の養成と、家庭学習の習慣化を図る。	B	
		時間の厳守や服装容儀など、基本的な生活習慣の確立に努める。	B	
	進路活動及び特別活動の充実を図る。	計画的な進路ガイダンスや、進路に関する情報収集の機会を設け、生徒が自身の適正や希望に応じた進路選択ができるようにする。	A	
		インターンシップやボランティア活動を推進し、生徒の内面的な成長とともに、生徒の進路への意識を高める。	B	
	社会に求められる人材を育成する。	規範意識及びマナーを身につけ、時と場や目的に応じた立ち振る舞いができるように支援する。	A	
		日頃からPDCAサイクルを使って生活するよう支援し、課題解決能力を身に付けさせる。	B	
		ホームルーム活動や学校行事などを通し、所属する集団(クラス・学年・学校)に貢献する意識と行動を育てる。	A	
		卒業後も視野に入れた生活習慣と学習習慣の意識向上	C	
第3学年	卒業後も視野に入れた生活習慣と学習習慣の意識向上	家庭学習の習慣化とともに、学校生活中の学習習慣を向上させる。具体的には、朝や休み時間、放課後などすきま時間の学習習慣の充実を図る。	C	B 学習習慣が身につけなかった。学年全体で声かけをしてきたのだが、持続的な学習意欲を保つことができなかった。「基本的な生活習慣」のなかに、「学習習慣」を組み入れていくことが必要である。規範意識をもって主体的に行動したり、自分の考えを自分の言葉でまとめ伝える力をつけさせていくために、1年生の時から狙いを定めて活動させていくことが必要である。その中にはボランティア活動や資格取得なども含まれる。進路活動が全体的に遅れがちであった。来年度以降の新入試制度を考慮し、その影響が今年から出てくることを、生徒にはもっと伝えていった方がよかった。
		自身の机上机下の整理とともに、自身の生活環境である教室、学校の整備、美化を図る。	B	
		体調管理、服装容儀、言葉遣いの自覚など、基本的な生活習慣の確立に努める。特に、時間管理ができるように支援する。	B	
	進路実現のための支援の充実	進路決定のために具体的に行動できるよう、面談などを通して個人的な支援をクラスを超えて行っていく。	B	
		総合的な探求の時間を計画的に進める。その際、生徒が目的意識を持ち、思考、判断、表現できる活動になるよう支援する。	B	
		校外での体験活動を充実させる。看護体験、ボランティア活動など。	B	
	社会に求められる人材の育成	社会に出ることを意識した規範意識、ルール・マナーを身につけ、時と場と目的に応じた立ち振る舞い出来るように支援する。	B	
		日常生活や学校行事を通して、自己の成長を意識できるような支援を続ける。また、進路決定後の学校生活を目的を持って送れるようにする。	B	
		所属する集団(クラス・学年・学校)だけでなく、社会への所属意識と貢献できる行動を育てる。つまり他喜力の意識と向上を育む。	C	

※評価基準: A:十分達成できている B:概ね達成できている C:あまり達成できていない D:不十分である